

牛肉情勢

				3月14日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社													
項 目		内 容		備 考													
供給	1.国産	○ 1月の成牛と畜頭数は、86.1千頭(前年比101.1%)と前年を上回った。 内訳を見ると、和牛:41.6千頭(前年比105.9%)、交雑牛:20.5千頭(同102.7%)、乳牛去勢:9.1千頭(同89.3%)となった。		○国内生産量の推移(単位:千頭・%)													
		○ 2月の成牛と畜頭数は、速報値(2月28日まで集計)で80.5千頭(前年比96.0%)と前年を下回る見込みとなった。															
		○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(2月26日公表)によると、2月、3月の出荷頭数は、交雑種が増加するものの、和牛および乳用種の減少が見込まれることから前年同月を下回ると予測する。(2月 78.5千頭(前年比93.1%)、3月 87.0千頭(同96.6%))															
		3か月平均(1月〜3月)では、出荷頭数82.7千頭(前年比95.5%)、生産量26.3千ト(同95.2%)と前年を下回る予測となっている。															
		○ 1月の輸入通関実績は、全体で32.6千トと前年を下回った(前年比75.3%、前月比83.0%)。 内訳ではチルド:13.4千トン(前年比78.8%、前月比83.6%)、フローズン:19.2千ト(前年比73.0%、前月比82.7%)となった。 輸入相手国別では、チルドはニュージーランド、カナダが増加し、フローズンは、主要国全てで減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量)															
		チルド :豪州6.2千ト(前年比76.1%)、米国5.8千ト(同76.9%)、ニュージーランド0.7千ト(同119.1%)、カナダ0.5千ト(同115.1%)、メキシコ0.1千ト(同97.9%) フローズン :豪州8.9千ト(前年比70.1%)、米国6.9千ト(同86.9%)、ニュージーランド1.2千ト(同65.4%)、カナダ1.1千ト(同41.7%)、メキシコ0.7千ト(同99.8%)															
		○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、現地価格の高止まりを受けて低調に推移する中、チルドは、2月は前年同月の輸入量が少なかった事等から前年同月を上回る、3月は主要国を含むほとんどの輸入先からの減少が見込まれる事等から下回ると予測する。フローズンは、2月は主要国のうち豪州を除くほとんどの輸入先から、3月はほとんどの輸入先からの減少が見込まれる事から、2月、3月ともに下回ると予測する。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。		※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない ○輸入量の推移(単位:千ト、%)													
		令和7年2月 合計:31.1千ト(前年比100.3%)、チルド:13.9千ト(同111.2%)、フローズン:17.2千ト(同93.0%) 令和7年3月 合計:31.0千ト(前年比80.8%)、チルド:14.4千ト(同79.3%)、フローズン:16.6千ト(同82.2%) 直近3か月(1月〜3月)平均 合計:31.6千ト(前年比84.2%)、チルド:14.3千ト(同90.1%)、フローズン:17.3千ト(同79.9%)															
		需要	2.輸入	○ 総務省発表の1月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は435g(前年比96.2%)、支出金額が1,633円(同93.2%)となり、購入量、支出金額ともに前年同月を下回った。													
				○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の1月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,240.3億円(前年比101.7%、既存店ベース100.3%)と前年上回った。 牛肉や輸入肉の相場高が継続し、なかでも輸入品の価格高騰が続き不調となった。牛肉は成人式などハレの日後にブランド牛が動いた店舗もみられたが、それ以外では価格を抑えた切り落とし等が販売の中心となった。 豚肉は、スライスやしゃぶしゃぶ用に回復傾向がみられたが、国産豚の価格上昇もあり伸び悩んだ。鶏肉は、鍋需要の受け皿となったが、鳥インフルエンザによる国産価格の上昇により好不調の判断がわかれた。													
○ 日本チェーンストア協会が公表した1月販売概況によると、畜産品の売上は913.9億円(店舗調整後で前年比100.6%)となり、前年並みとなった。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉は鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージは鈍かった。																	
○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査1月度結果報告によると、年末年始の長期連休で活発な国内移動と単月訪日外国人客数が過去最高を更新したことにより外食産業は堅調だった。断続的な価格改定による単価上昇で外食全体の売上は超えているが、消費者の低価格志向が強まる中、一部で客数が前年割れのところもあり、業種間・企業間で差が見られた。 業態別: ①ファーストフード 前年比108.1% 年始需要や各種キャンペーンの影響から好調。価格改定による単価上昇で売上を維持しているが、一部店舗では客数減も ②ファミリーレストラン 前年比107.2% 年始需要やクーポン、キャンペーンが好調。焼き肉は、年始需要と価格改定による客単価上昇などで売上伸長も、客数は伸び悩んだ ③ディナーレストラン 前年比105.0% 中華圏で「春節」が始まりインバウンド需要が他業態よりも好調なところが多く、帰省等による需要も堅調だった ④居酒屋 前年比104.8% 比較的堅調に推移し、立地によってはインバウンド需要もあった。低価格指向に合わせた業態へ転換した一部店舗では客単価が前年を下回った																	
○ 1月の輸出実績は637.8ト(前年比105.8%)と前年を上回った。台湾向け(83.9ト、前年比77.6%)、香港向け(88.2ト、前年比93.9%)は前年を下回ったが、米国向け(183.9ト、前年比142.6%)は前年を上回った。また、カンボジア向け(63.9ト、前年比151.0%)は前年を上回ったが、不安定な状況が続いている。																	
在庫	1.在庫			○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、1月末の推定期末在庫量は136.2千ト(前年比101.8%、前月比96.9%)と前年を上回った。 内訳は、輸入品:126.1千ト(前年比103.2%、前月比97.1%)と前年を上回り、国産品:10.1千ト(同87.2%、同94.4%)と前年を下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、2月末:131.0千ト(同101.4%)、3月末:122.5千ト(同98.5%)と2月は前年を上回るが、3月は下回ると見込まれている。													
				枝肉相場	2.小売動向 1月概況	○ 1月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;2月28日時点)は、和牛去勢A5が2,563円(前年比99.4%)、A4が2,290円(同101.6%)、交雑去勢B3が1,529円(同99.0%)、乳牛去勢B2が1,109円(同131.2%)であった。											
						○ 2月は、量販店の決算セール等による需要喚起は盛り上がりには欠けたものの、和牛は出荷頭数の減少から需給が引き締まり前月を上回った。 輸入牛肉の高値推移や消費者の節約志向等から、交雑牛は出荷頭数が増加したものの前月と同水準、乳牛去勢は出荷頭数減から前月を上回った。											
						○ 3月は、例年歓送迎会や花見需要等に期待が出来るものの、本年は全国的な寒波の影響や消費者の節約志向の高まり等から需給は均衡すると思われることから、和牛・交雑牛とも横ばいでの推移を見込む。乳牛去勢については、輸入代替需要が継続しているものの限定的であるため横ばいでの推移を見込む。											
						◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】											
		1月実績 2月速報値 3月予測 4月予測															
		・和牛去勢「A-5」: 2,498円 (96.3%) 2,563円 (99.4%) 2,550円 (100.8%) 2,550円 (102.2%)															
		・和牛去勢「A-4」: 2,234円 (96.5%) 2,290円 (101.6%) 2,300円 (105.6%) 2,300円 (106.2%)															
		・交雑去勢「B-3」: 1,523円 (100.5%) 1,529円 (99.0%) 1,500円 (97.0%) 1,500円 (93.5%)															
		・乳牛去勢「B-2」: 1,072円 (123.8%) 1,109円 (131.2%) 1,100円 (125.4%) 1,100円 (118.8%)															
部分肉相場	1.7年3月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】 【和牛:4等級】 【ホルス:2等級】 【交雑牛:3等級】															
		・和牛カタセット(スネなし) : 3,100円 ・ホルスカタセット(同) : 2,000円 ・交雑牛カタセット(同) : 2,500円															
		・和牛ロースセット(ヒレなし): 5,500円 ・ホルスロースセット(同): 3,500円 ・交雑牛ロースセット(同): 4,500円															
		・和牛モモセット(スネなし): 3,600円 ・ホルスモモセット(同): 1,900円 ・交雑牛モモセット(同): 2,300円															
		・和牛トモバラ : 1,900円 ・ホルストモバラ : 1,250円 ・交雑牛トモバラ : 1,400円															
		○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)										農水省食肉流通統計 (速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)					
		暦年		和牛去勢A-5		和牛去勢A-4		交雑牛去勢B-3		乳牛去勢B-2							
		価格 前年比		価格 前年比		価格 前年比		価格 前年比		価格 前年比							
		R3年		2,702 109.9		2,427 115.4		1,554 111.1		1,004 108.6							
		R4年		2,607 96.8		2,348 96.9		1,523 98.1		1,042 102.4							
R5年		2,558 98.1		2,202 93.8		1,474 96.8		878 84.3									
R6年		2,493 97.4		2,162 98.1		1,566 106.4		1,004 116.4									
R6年10月		2,471 98.1		2,091 101.6		1,562 109.8		1,036 125.1									
R6年11月		2,624 99.8		2,349 105.1		1,573 103.9		1,119 141.5									
R6年12月		2,712 99.1		2,463 101.9		1,644 100.1		1,217 153.1									
R7年1月		2,498 96.3		2,234 96.5		1,523 100.5		1,072 123.8									
R7年2月速報値		2,563 99.4		2,290 101.6		1,529 99.0		1,109 131.2									